

令和2年度 第2回 学校運営協議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和2年11月19日（木） 16:00～17:00
- 2 場 所 校長室
- 3 出席者 喜田会長、乾委員、谷口委員、豊田委員、村田委員
檜崎校長、芥川教頭、石原事務長、黒田首席、新田首席
その他教員 4名

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 授業見学
- (3) 令和2年度学校経営計画及び学校評価について
- (4) 令和3年度使用教科用図書の採択について
- (5) 閉会

5 協議・意見交換

<授業および学校見学について質問及び感想>

【質問】

委員：校舎が大変広く生徒が移動教室などで迷うことはないか。

事務局：1年次はHR教室から授業担当者が引率して移動するようにしている。2、3年になると少しずつ覚えている。

【感想】

委員：実習の報告会や下級生のために仕事の内容などをポスターにして掲示する取り組みも良いアイデアだと感じる。職場のイメージを持てるような視覚的な工夫が良かった。

校長：近隣の高等学校より見学や相談を受け入れているが、その際にも同じような意見をいただいている。

<令和2年度学校経営計画の進捗状況>

校長：コロナウイルスの影響で当初の計画から変更となっている部分が多くあるが、現在の生活様式に合わせた形でできることから実施している。

【協議】

委員：自己診断アンケートで生徒の授業の分かりやすさに対する肯定的意見が10ポイント程度低下しているが、何か理由があるか。

校長：生徒の理解度に応じて余裕をもって進めるように教員に伝えてはいるが、4、5月の臨時休業の影響があり授業の進度が例年より早かった部分の影響があるかもしれない。

委員：授業見学中に言語による指示・教示が多かったように感じた。個に応じて視覚的な支援を取り入れることで肯定的な意見が増えるのではないか。

校長：研究授業の反省会などで生徒が注目できるような、ことばかけの方法や仕組みを工夫するように伝えている。今年度、スマートスクール事業でVRゴーグルなどのICT機器を活用した指導・支援方法の研究にも取り組みは始めている。

<令和3年度使用教科用図書採択について>

校長：第1回の協議会でも示したとおり、教育庁に採択された。

委員：「数学活用」という教科書では、実務的な「買い物」「時間の計算」など実生活で役立つ学

習が行なわれているのか。

事務局：新３年生の教科書は開校当初、高等学校のシラバスを参考にしていただいていた部分があったため選定した経緯がある。教科書で足りない部分は教員がプリントを自作して教材としている。新１年生からは「くらしに役立つ数学」という知的障がいのある生徒向けの教科書に変更し、より生活に役立つ内容を取り扱うようにしている。

委員：卒業した方たちを見ていると、難しい数学の公式を覚えるより基本的な計算能力や日常生活に役立つ力が必要だと感じている。

校長：教育課程を見直し、教科を合わせた指導の必要性も検討している。先日も教員に対して本校生徒にとって相応しい教育内容はどのようなものか、各教科で検討するよう指示したところである。

委員：生活経験の乏しい方が多い。ひとりで生活するために家計簿をつけて、ひと月の見通しをもつなど金銭の管理や実際の買い物の訓練などの必要性を感じる。

委員：ネットショッピングでトラブルになることもあり、お金の価値を十分に理解できていない方もいるので、学校の中でも指導してもらえるとありがたい。

委員：携帯電話でのトラブルも増えており、料金体系などの詳細を理解しないまま契約してしまい、解約する際に苦勞するケースも多い。

校長：いわゆるＳＳＴの取り組みを一部の生徒を対象にＶＲゴーグルなど活用して始めているところである。

<学校運営協議会 実施要項の改定について>

教頭：昨年度末の運営協議会がコロナウイルス感染対策のためと書面での開催となったが、要項が改訂され会議の場に出席することが必要となった。ただし、感染症対策のためオンライン会議システムを利用して会議に出席することが可能となったので、必要な場合は事前に相談をさせていただくことになる。

【質問・協議事項なし】